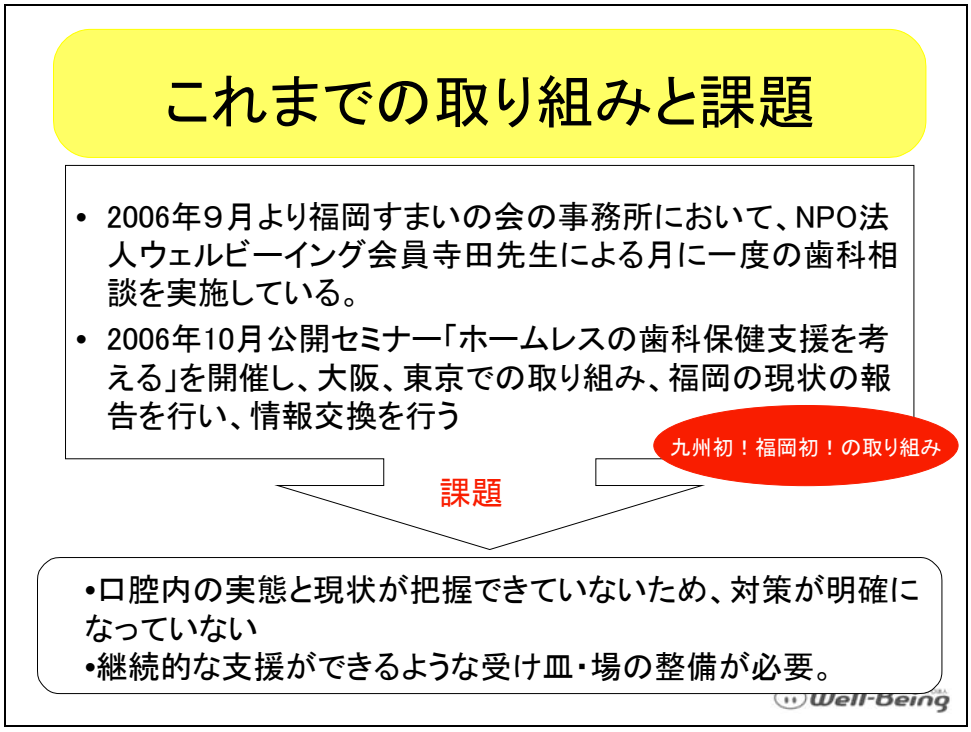
ホームレス支援ラウンドテーブル記録

＜概要＞

現在、ウェルビーイングでは、NPO法人福岡すまいの会と協働でホームレス歯科保健に取り組んでいる。

現段階での活動



また、3 月 21 日は、福岡すまいの会（医療相談•自立支援）、衣類バンク（炊き出し•衣服提供）との協働で**「ホームレスを対象とした歯科検診•相談と歯みがき指導事業」**（平成 18 年度福岡市 NPO 活動推進補助金事業）を福岡市博多区美野島カトリック教会で実施予定。

今回の RT では、ホームレス者の歯科治療をどうしたら複数回の治療や、補綴治療までつなげることができるか。この活動を今後どのように広げていけばいいくか。という2点について話し合われた。

参加者にとって、あまり関わる事のないホームレスについての議題であった為、発表者側からの説明が主であったが、貴重な意見も多く出ていた。まずは、現状を知ってもらい、今後ホームレス支援を考えてもらえる良い機会であった。

＜内容＞
初めに、寺田先生、安達さん（福岡すまいの会）からの福岡市におけるホームレスの現状、歯科相談•歯科検診報告があった。

1現状

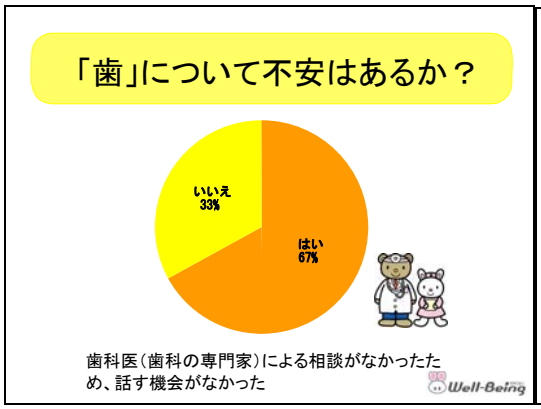
•人数 607 人（都市別全国6位）
•生活場所　都市公園77.3％（全国41.1％）
•以前の雇用形態　正社員が48.2％（全国41.1％）
•路上に至った理由　仕事の減少（68.5％）
•福岡市での福祉制度等の利用窓口:博多区保健福祉センター、保護3課のみ
•緊急医療（1日診療のみ）

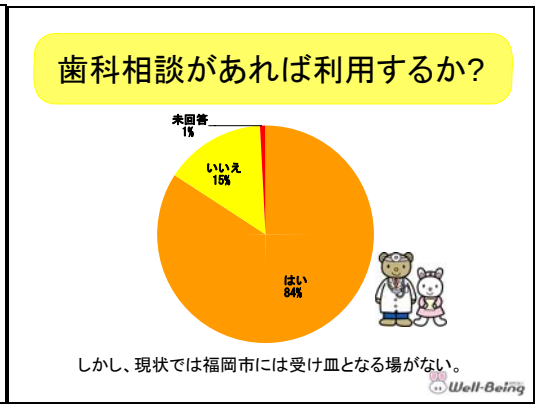
•行政とNPOの協働という形は、現在は個人の守秘義務ということから、減少している
•ホームレス者のやり直したいという気持ちと環境（新規事業の減少から仕事が少ない等）にはギャップがある

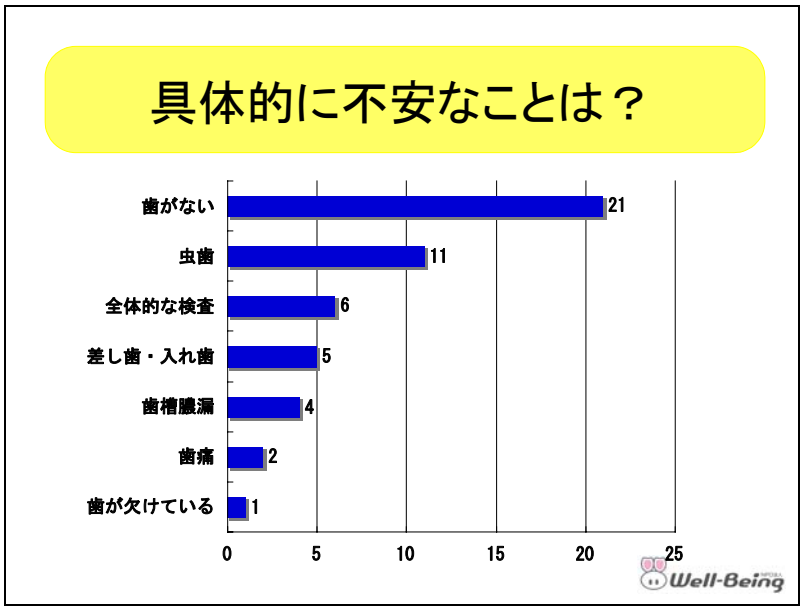
2、現在の問題点

•医療券は一人につき月に一枚一日（医科か歯科かどちらか）で、緊急医療のみに限定されている
•無料低額診療制度は抑制傾向にあり、実質使えない状態である？

3. 歯科相談（アンケート）報告







•対象者の年齢分布では、51~60 歳が最も多い
•無料健康相談を利用したことがある　はい26％　いいえ74％

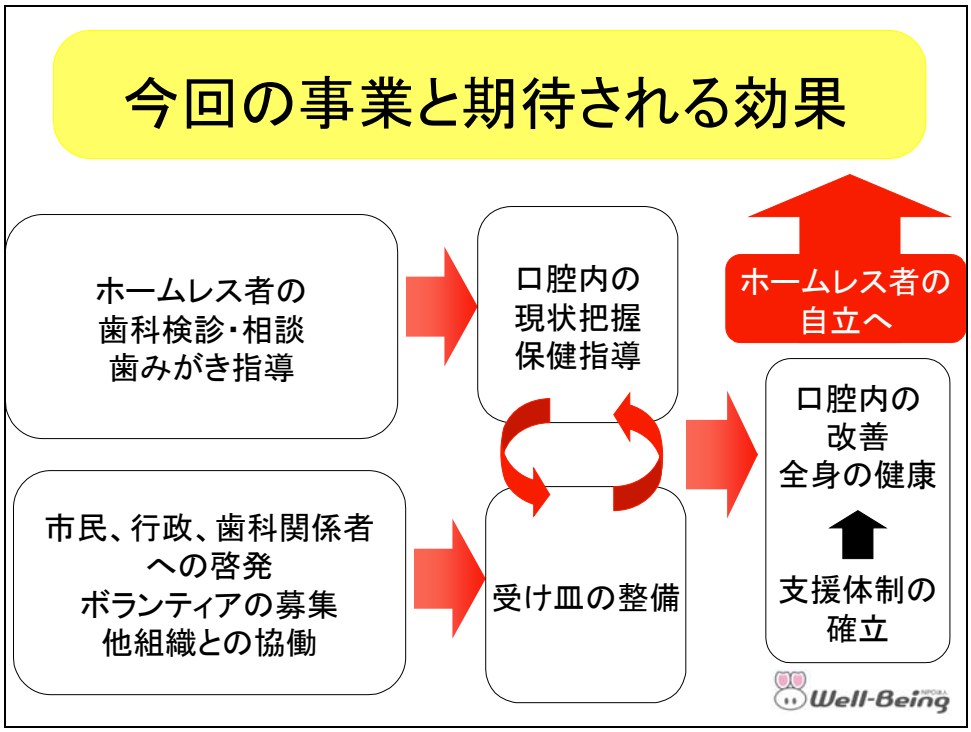
4. 寺田先生による歯科検診報告

- 口腔内にも差があり、歯がほとんどなくて困っている方もいれば、歯もしっかり残っていて、ブラッシング指導さえしてあげればいい人もいる。
- 歯ブラシ指導などで改善される事が多いと思われるが思うようにいかない。

•紹介状を出せる受け皿が少ない
•1日医療券だけでは、限界がある。（一日で解決するような治療ではない事が多い。歯科治療は行政が認めない範囲の治療が必要である事が多い。）

•生活保護法があるので数回に渡る治療も可能と思われるが現状では行政は認めない。
•行政と交渉が成功した場合であっても、ホームレスの人たちがきちんと治療に来てくれるとは限らない。

○報告後の意見交換

•NPOだけでは、限界がある。
•歯科医師会に行政との交渉をしてもらう。
•歯科医師会は、会員の利益誘導でなく。制度づくりをする責任があるのでは？
•ホームレス者の生活の変化をきちんと出して行政に働きかける。（口腔内状況だけでな

<QOLが改善しているか、データを積み重ねて、行政に提示する）
•行政にインセンティブがないからでは、ないか？
•個人にも社会にも責任がある、行政は、新しいことを積極的にやるところではない（新しい仕事を嫌う）
•そのために行政が「せざるを得なかった」と言わざるを得ないような働きかけをしていかなければならない
•各歯科医院が受け皿になるとしてもホームレスの持病、臭いが気になる。
•人間関係の喪失が、ホームレスへ通じている。
・ 昔は、大家族という構成でどんな人にも居場所があったが、今は家族の単位が小さくなり、居場所がなくなる。居候、書生、住み込み雇用者なども現在では少なくなった
・ 居場所が必要（シェルターや施設）
•社会整備が必要である
•NPOとしてできることの活動を広げる